第６１回　札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール　入賞作品集

どさんこ

刑務所・少年院では，情操教育・余暇の善用を目的として，さまざまな分野の作品を扱うコンクールを毎年開催しています。

本年度もたくさんの作品が集まりました。その中から，道内で活躍する専門家により選ばれた優秀作品を紹介します。

美術部門　Ｐ１

書道部門　Ｐ５

ペン書道部門　Ｐ７

文芸部門　Ｐ９

美術部門

写生画　第一席

『山麓の民家』

函館少年刑務所　O・N

色の塗り重ねの効果が素晴らしく細部まで緻密に描写された力強い作品です。効果的に彩色され、山麓の民家の雰囲気が良く描かれている力作です。

写生画　第二席

『雪化粧』

旭川刑務所　A・Y

冬の雪景色が細やかな点描で表現されています。紅葉が一面に雪で覆われた様子が感じ取られます。急に降った雪が自然の景色を一瞬にして変えてしまい、とまどいの気持ちがこの絵に表現されているように感じます。

写生画　第三席

『山家の春のドラマ』

旭川刑務所　I・Y

長い冬が終わり、ようやく春が訪れた喜びと開放感が伝わってきます。特に若葉の色の変化や農家の藁屋根の彩色には細かなタッチで描かれており、集中力が伝わってきます。

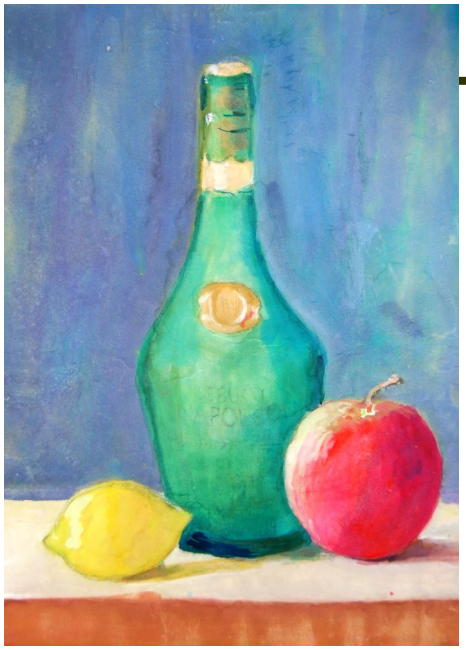
絵画
第一席

『静物画』

北海少年院　S・R

バランスのとれた構図で描かれており、まとまった絵となっています。色彩も画面全体が中間色でまとめられ、個々の果物の特徴を捉え、明暗が上手に表現されています。

絵画
第二席



『静物画』

北海少年院　K・D

描かれているボトルや果物がやわらかな色彩で統一され、色の微妙な変化が上手に表現されています。特にりんごの赤い色の表現や背景の色彩が良く工夫されて描かれています。

絵画　第三席

『静物画』

北海少年院　H・M

全体的に明るい色彩で描かれ、さわやかな感じのする絵です。ただ、果物の配置が少々ばらばらでまとまりに欠けるので、配置を工夫することや、一つ一つの果物をもう少し丁寧に観察して描くと、一層良い絵になったと思われます。

総評

【写生画（成人の部）】

描く対象物を深く観察し、感じた情景をいかに表現するかが大切とされています。今回入賞した作品は、三点とも風景画でしたが、どの作品も個性豊かで、時間をかけて一筆一筆心を込めて描いたと思われる作品でした。細密な点描ではありますが、全体部分のバランスも良くとれており、努力の跡がうかがえました。

【自由画（成人の部）】

同じジャンルの作品が賞に選ばれました。作品のテーマは「地獄太夫」と「龍」が中心であり、同じ題材で優劣を付けるのは難しい面がありましたが、絵全体の色彩の配色や彩色のテクニックに焦点を当てて審査しました。

全体の彩色のバランスを保ちながら細部に至るまで丁寧に仕上げた作品を入賞作品としています。

【絵画（少年の部）】

応募施設が少なく、施設により作品のレベルが違い過ぎたのが残念な気もしましたが、逆に出品者数が少ないことは少年院に入る人が減ったということなので良いことなのかなと思いながら審査しました。

入賞した作品は大きな優劣はなく、色彩も混色による中間色で彩色されたまとまりのある作品でした。対象物を良く観察し、丁寧に表現された作品を選びました。

自由画　第一席

『地獄太夫と小鬼』
月形刑務所　G・E

画面の隅々まで丁寧に彩色された努力作です。色彩も多彩で、画面からは地獄の中の明と暗の存在が伝わってくるようです。

自由画　第二席

『地獄太夫と菊散らし』
札幌刑務所　S・K

画面全体が鮮やかな色彩で、作品が力強く表現されています。多彩な色彩をバランス良くまとめています。見る人を引き付ける魅力があります。

自由画　第三席

『龍』
札幌刑務所　S・Y

白色と黒色のみのモノクロによるユニークな作品としてとりあげました。龍の力強さが単純な色彩で、見る人を魅了させる作品です。モノクロ画は日本古来の絵画である水墨画に通じる画法でもあります。

入賞作品展（成人と少年の絵画）　の様子

写生画（成人の部）　佳作
『月形の夏』月形刑務所　Ｇ・Ｅ

写生画（成人の部）　佳作
『桜花爛漫』函館少年刑務所　Ｔ・Ｔ

写生画（成人の部）　佳作
『２人のアトリエにて....』札幌刑務所　Ｈ・Ｍ

写生画（少年の部）　佳作
『バリアフリー』紫明女子学院　Ｎ・Ｋ

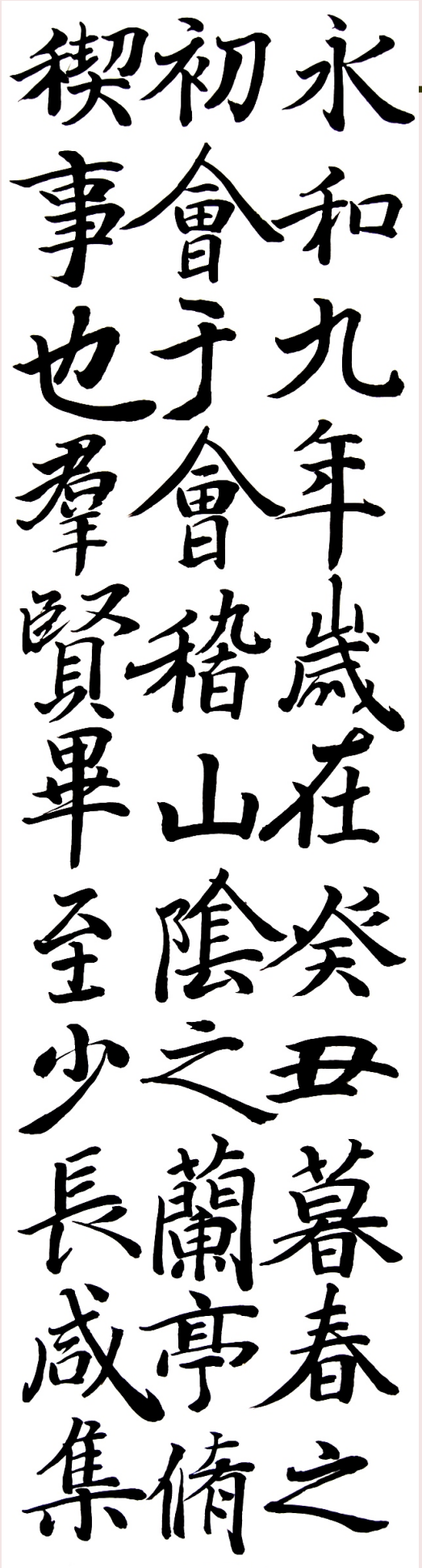
自由画（成人の部）　佳作
『龍櫻』函館少年刑務所　Ｈ・Ｒ

自由画（成人の部）　佳作
『蛇とスカルのもみじ散らし』
札幌刑務所　Ｓ・Ｋ

自由画（成人の部）　佳作
『抱き鯉』月形刑務所　Ｋ・Ｙ

書道部門

書道（成人の部）第一席



『蘭亭叙』

札幌刑務所　M・T

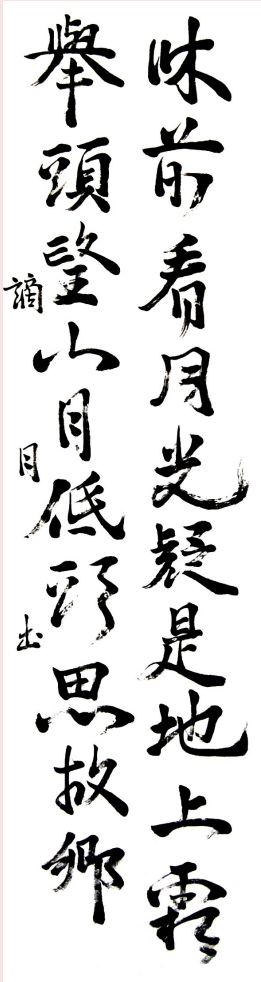
古来、これほど親しまれ、多く学ばれた法帖は他に例を見ないだろう。蘭亭叙の優雅な気が漂います。文字の大・小、細・太、遅速の変化と後半に向かって優である。

書道（成人の部）第二席

『温泉銘』

札幌刑務所　K・M

王羲之の書を熱愛したという唐の太宗皇帝の堂々とした書・温泉銘」。力強く奔放な筆致が細部にこもり、より大らかさを表現している。「翠」「先」「年」、特に見事である。



書道（成人の部）第三席

『静夜思』

月形刑務所　K・K

唐の李白の「静夜思誌」の情を一点一画に込めた穏やかな書である渇筆がより寂寥感を醸し出して妙である。行書の字勢による崩し方、再確認を…。

書道（少年の部）第一席

『近在目前』

北海少年院　S・H

一点一画の筆の働きを丁寧に運筆し、紙面への配分も整い、静かさの中に安らかさをも感じます。深長な楷書作品です。

書道（少年の部）第二席

『人生感意氣』

帯広少年院　K・Y

意気の炎が舞い上がっています。筆と共に明るく、空間いっぱいに気力が貫通しています。鮮やかな意気を存分に感じます。

書道（少年の部）第三席

『上下一心』

北海少年院　T・R

筆の線なればの明快な一作に見入ってしまいます。無限な空間を統一に受け止めての清らかさに感動です。

総評

【書道（成人の部）】

一心にひたむきに法帖に向き合った臨書作品、好みの言葉に触発された熱意の書、写経など、今年も多様な作品が揃いました。書の持つ力と言葉のちからとが結び合って千万無量の詩情が誕生しています。ただ…、出品数が少なく大変難しい審査となりました。

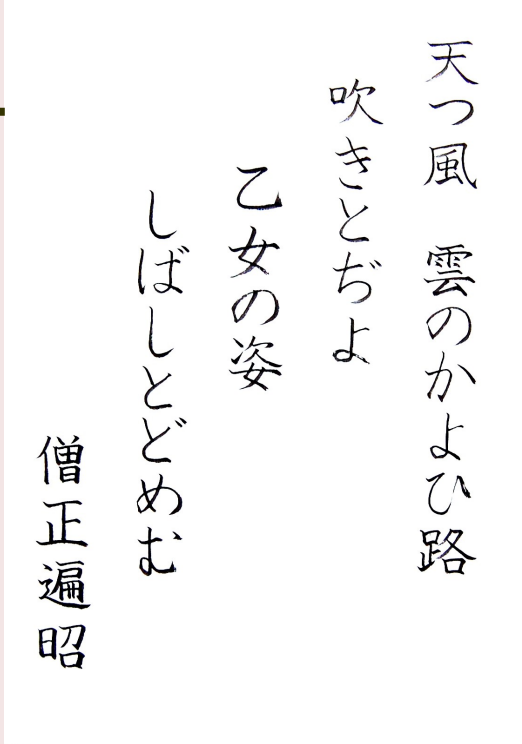
【書道（少年の部）】

今年は力作が揃い嬉しく審査をいたしました。書く言葉の意味を充分に噛み砕いて、真剣に運筆する気迫が伝わり、一作一作が目に飛び込んできます。「書く力」と「言葉のちから」が渾然一体となってこその作品が輝きを増しています。生活の中での自分自身と静かに向き合う時間は様々でありましょう。筆・紙・墨と共に精神統一、一気阿成に運筆する書道。私も書のひと時からたくさんの学びをしています。来年も躍動感いっぱいの力作を出品してください。

入賞作品展（書道）　の様子

ペン書道部門

ペン書道（成人の部）第一席

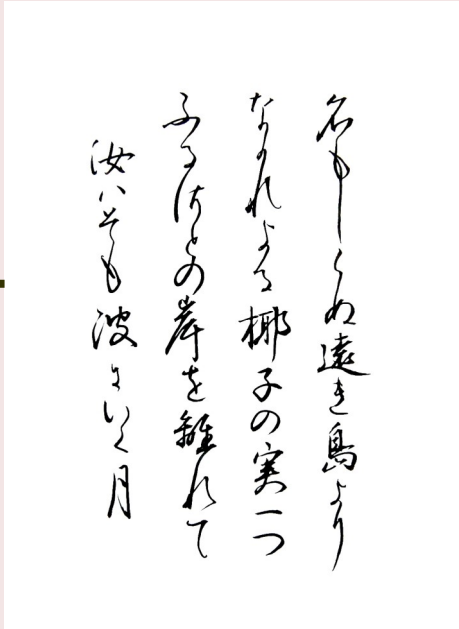


『天つ風』

函館少年刑務所　O・N

百人一首から僧正遍昭の作です。字形は正しく整然としていて立派です。読み人は目立ち過ぎ。ひと回り小さく書いてください。また、使用している筆ペンはかすれが出ているので、新しいペンに取り替えどきです。

ペン書道（成人の部）第二席

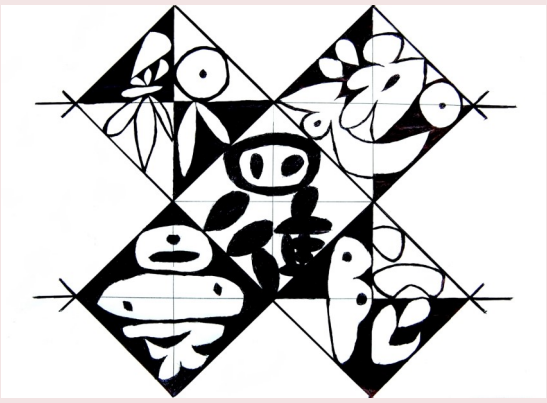


『椰子の実』

札幌刑務支所　S・Y

変体仮名は一般的に和歌などに使われるもので、近代詩に使うのは珍しいです。行間や段落に工夫するとより良くなります。

ペン書道（成人の部）第三席



『釈迦曼荼羅』

札幌刑務支所　K・A

釈迦曼陀羅を幾何学模様にうまくおさめました。黒白の変化で文字が強調され展示作品としては成功です。用紙の使い方も申し分なく構成力があります。ただ、「羅」は崩し過ぎです。

総評

【ペン書道（成人の部）】

この度は、展示することに重点をおき選定させていただきました。筆記具の使い方、文字の大きさ、用紙の使い方など、正しく美しく書かれた作品が選出されています。

今回、惜しい作品がたくさんありました。文字は美しいのですが、用紙に対してバランスの悪いものが多いです。余白を大切にしてください。

【ペン書道（少年の部）】

入賞された方、おめでとうございます。丁寧さと作品としてしっかり出来ている部分を見させてもらいました。内容の良いものを選んで努力しているのは認めます。紙と文字の大きさや書く位置などを考えてください。

書道（少年の部）第一席

『無題』

北海少年院　S・H

整然と書き綴られた般若心経に驚きました。２６２文字を間違えずに美しく整えることは容易ではありません。「一字一仏」と言って一字ごとに心を込めて書くのですが、精神を集中させて良く書き上げました。

摩訶般若波羅蜜多心経
観自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舎利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舎利子是諸法空相不生不滅不垢不浄
不増不減是故空中無色無受想行識無眼
耳鼻舌身意無色声香味触法無眼界乃至
無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死
亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等
呪能除一切苦真実不虚故説般若波羅蜜
多呪即説呪曰羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧
羯諦菩提薩婆訶

般若心経

書道（少年の部）第二席

『階段』

紫明女子学院　S・M

一文字ずつがしっかり書けていて好感が持てます。また、用紙の大きさに字数の少なさが調和していて作品になっています。

一段飛ばし
なんて
出来ない

書道（少年の部）第三席

『無題』

北海少年院　S・H

作品作りは構成がすべてです。そこに丁寧に体裁よく書かれた詩文は読む気を誘います。

なにが君の幸せ
なにをして喜ぶ
わからないまま終わる
そんなのはいやだ
忘れないで夢を
こぼさないで涙
だから君は飛ぶんだ
どこまでも

入賞作品展（ペン書道）　の様子

文芸部門

短歌

（成人の部・少年の部）

第一席

咳きこめば背をまあるくなでくれし
母の温もりよみがえるなり

網走刑務所　O・K

第二席

不機嫌な人が多いと思う日は
目深に被る真夏の帽子

月形刑務所　S・Y

第三席

懲罰をあざ笑うごと雪止まず
我の心を正す三畳

帯広刑務所　S・E

第一席　心がほっこりと温かくなる。あの時、あの場面が一瞬にしてよみがえる。温かい母の手は神の手なのだ。「まあるく」の表現が良い。余分なことは言わず素直に詠まれている。

第二席　難しい環境の中では自己防衛も必要となろう。周りの雰囲気をいち早く察知して無駄な軋轢を起こさないように身を守る。作者の人間性が垣間見えて面白い。暗い題材を明るく軽妙にうたった。

第三席　懲罰のために入った三畳の独房。作者の心を鞭打つように昼なお暗く雪が降り続く。自己の罪を自覚し、罰を受ける覚悟が見える。結語の体言止めは作者の強い意志が反映して、一首が引き締まった。

第一席

おうちにはオスメスのねこ二匹いて
オスの方がさ　ドラえもん似だ

紫明女子学院　Y・K

第二席

偽りの弱い自分は過去の僕
自分を探す今日も明日も

北海少年院　H・N

第三席

卒業で今日までの思い出が
涙とともに込み上げてくる

月形学園　I・T

第一席　この歌、一読して心がほどけていく楽しい一首。四句目「オスの方がさ」の「さ」も邪魔にならず、リズム感を整えていて面白い。

第二席　過去の弱い自分から抜け出して、未来へ向かって新しい自分を探す。その気持ちを切り替えて真剣に前へ進もうとする意志が、下の句の倒置でより強く伝わってくる。

第三席　この学園に入って過去の生活を見つめ直し、ようやく卒業のときが来た。辛いこと、苦しいこと、悲しいこと、いろいろな思いで涙があふれる。スタートはこれから、この涙を無駄にしてはならない。

総評

【短歌（成人の部）】

いつもながら、入賞、佳作の選出には苦労しました。その人でなければうたえないもの、借り物でない、作者自身の言葉で表現されたもの、作者の人間性が感じられるような歌に心打たれます。

多分、入所以前から短歌に親しんでいた人は少ないと思います。ここで短歌と出会えたことを喜びとし、少しでも心豊かな受刑生活を送られるように念じています。

【短歌（少年の部）】

どの歌も過去の自分を反省し、後悔の心情がつづられています。

御存知のとおり、短歌は五・七・五・七・七からなる定型の詩です。字余り、字足らずも多少は許されますが、特に字足らずはリズムが崩れることが多いので、作歌のときは気を付けましょう。一首できたら声に出して読んでみてください。昔から日本人の大好きな心地良いリズムが分かってくると思います。

俳句

（成人の部・少年の部）

第一席

秘密基地　怪獣でるぞ　青あらし

帯広刑務所　I・Y

第二席

左手と　右手が違う　雪だるま

函館少年刑務所　O・N

第三席

七夕や　そっと盗み見　子の願ひ

札幌刑務所　M・Y

第一席　子供の頃の追憶であろう。青嵐とは初夏の頃に吹く強い風。秘密基地遊びをするときに、いかにも怪獣の来そうな予感をさせる強風。怪獣と秘密基地遊びと青嵐、何か一つでも欠けると子供達の生き生きさも欠けてしまう。

第二席　作者も雪だるまを作った一人なのだろうか？それともたまたま他所の雪だるまを見たのだろうか？観察力の表れなのだろうが、几帳面を感じる面白い作品。何か手に持つ雪だるまもあるのだろうが一つの発見である。

第三席　短冊に書き込んで七夕飾りに吊るす願い事、子供に知られないように覗き見をする親心。叶えてあげられない程の大きな夢も時代の流れかもしれない。

第一席

スイカ食べ　種まで食べる　勢いだ

紫明女子学院　N・K

第二席

西瓜割り　地面たたいて　しびれる手

月形学園　N・N

第三席

かぜふけば　あきのにおいと　はがおちる

北海少年院　K・H

第一席　猛暑の中で食べる西瓜のみずみずしさにかじり付く。その勢いは種も出さぬ勢いなのだ。外のことは何も云わずに、その動作だけを読む。

第二席　浜辺での一場面。見られていると思うと余分な力が入る。西瓜に当たらぬときの腕の痺れは誰にもある経験だろう。その日一日を思い出す楽しい夏の日の記憶。

第三席　少年の敏感な感情。桂の木などは良い香りを放つ。北海道は雪虫が飛び始め、一気に冬将軍が押し寄せる。

総評

【俳句（成人の部）】

ここ数年の中で一番に作品が揃った。無季の句はほとんどなく、然も有季定型な平明な作品が多くなったことは嬉しかった。ただ、過去の大会の入選句や、有名な俳人の作品と同一の作品があったのは残念だった。

【俳句（少年の部）】

作品の少なかったことが残念。出品作はどれも真面目に詠んでいて好感を持てた。来年は大勢の参加を期待したい。

入賞作品展（短歌・俳句）の様子

詩

（成人の部・少年の部）

第一席（成人の部）

「一筋の光」

旭川刑務所　G・H

北国の冬は
寒くてとても長く
生活のすべてが雪の中にある

激しい風雪は
昼夜の境い目なく
すべてを飲み込んでしまう

静寂を切る
凍えと苦しさに
耐えきれずに私は泣いていた

我が人生は
長い冬の嵐を
いつまで受け続けるのだろうか

わが人生に
暖かな春の日を
迎え入れることはできるのだろうか

諦めに似た
気持を抱きながら
ふと、視線を上げてみた

私を射った
空の雲間から現われし
神々しい一筋の光が……

すっかり忘れていました
冬の光が
こんなに暖かいなんて。

身も心も寒く冷たい。なえ切った私に、天空から注ぐ一条の光。仰ぐ私、それはやわらかで、神々しくさえ見える。冷えた身体が次第に温もりを帯びてきた。平明な作ですが、純粋な一筋の光を通して、自身の内を見つめています。

第二席（成人の部）

「ひとこと」

函館少年刑務所　O・N

仕事して　家に帰って　ただ眠る　こんな生活が　あと何十年も続く
社会の歯車になったようで　止まらず進み続ける
部品の換えは　いくらでもあって　私がそこにいる意味なんてない
望んだ仕事はできなくて　小さなミスが大きく感じて
兄からのプレゼントを壊してしまった
自分が嫌になって　不の連鎖が続いて　自分を壊したくなった

制限されることが厭で　一人になりたかった　自由になりたかった
干渉してくる家族が厭で　「親子の縁を切ってくれ」と言った
自由を履き違えて　人の道を外れてしまった
逮捕されて　初めての面会　母は言う

「ね。家族の縁なんて切れないでしょ」

顔を上げられなかった　私が言ったひとことを聞いてなかったのか
ちがう
ひとことを聞いて　私を支える言葉を探してくれたのだ

母のひとことで気付いた
一人になりたいんじゃなくて　家族といたかったんだ
安心できる場所が欲しかったんだ
反発して　素直になれなくて　本当に大切なことが分からなくなっていた

口に出した言葉は戻らない　犯した罪は消せない
私がしたことは許されることではない　すべてを受け入れて前を向くしかない

私が言ったひとことは残り続ける　だから　考えて　考えて　言葉にする

無くしたものを　もう一度　ひとつひとつ拾い集め
本当に大切な物を　二度と見失わない　二度と手離さない
二度と過ちを繰り返さないために

卑下する気持ちが強く、頑なに異界に沈淪したままの私に、温もりのある世界を改めて教えてくれたあのひとこと―断ち切れない家族との絆。

第三席　（成人の部）

「少年時代」

月形刑務所　S・H

暫し、
目を閉じると、
忘却の彼方から、
少年時代過ごした、
故郷の臭い、
風情が、
瞼の底から、
津波のように襲ってくる。
都会の荒波に疲れ、
躓いたり、
思い悩んだり、
落ち込んだり、
色々な事で行き詰った時、
心の活性化、
癒しを求めて、
生まれ育った故郷の大地に、
足を踏み入れ、
身を委ねると、
自然と明日への、
生きる活力が、
湧いてくる。
純粋で無垢で素朴で、
好奇心旺盛な、
あの頃の、
少年時代に、
タイムスリップしたい。

邪心も私欲もなかった清い少年の頃が懐かしい。この詩を読んで私は、啄木の「盛岡の中学校の露台の欄干に最一度我を倚らしめ」の歌がしきりに思われてならないのです。

第一席　（少年の部）

「言えない言葉」

月形学園　N・N

お父さんごめん
お母さんごめん
お姉ちゃんごめん
弟ごめん

なかなか言えないこの言葉
言いたいけれど恥ずかしい
だから心はひねくれる

時間と共にどんどんと
ついに崩れた関わりに
気付けば非行の繰り返し
最後の最後に捕らわれて
そして今はここにいる

それでも家族は見放さず
何度も何度も会いに来る
その時決意し頭下げ
やっと言えた
ごめんなさい

それから距離は縮まって
今はお互い正直に
だから今を大切に

自分と家族との決して簡単ではなかった道のりを、巧みに、さらりと歌い上げている見事さがあります。やり場のない思いを抱えた自分と家族との衝突、自分の決意と家族との歩み寄り、未来への願い、それらが、8・5調と7・5調の調べにのって、心にストレートに伝わってきます。

第二席　（少年の部）

「理不尽」

北海少年院　N・S

この世は理不尽だ
自分への境遇を恨みつづけ
理不尽を受け入れられずに生きてきた
自分を可哀相と思いつづけ
非行までもを肯定して生きてきた

確かにこの世は理不尽だ
皆が違う人なのだから
全く一緒なんてことはありえない
皆が違う境遇なのだから
公平になんてなるはずがない

そんな理不尽な世界の中で
理不尽までもを逆境にできる
そんな人がいたならば
それは本当に素晴らしいことだと思う

恨んだって変わりはしない
ならば理不尽を恨む寂しい心などは捨て
理不尽までもを逆境にできる
そんな人になりたいと思う

そんな人になれた時が
これまでの自分と決別できる
そんな時なのだろうとも思う

この世の嘆き、自分の境遇をひたすら許否する自分を、今、乗り越えようとする新たな自分が生まれ出ようとしています。嘆くだけでは何も変わらないことを理解し、「理不尽」を逆境とし成長する自分、逆転の発送を得た自分を自覚し、行動しようとする強い心が表現からほとばしり出ています。

第一席　（少年の部）

「I（愛）メッセージ」

紫明女子学院　N・N

私は歌うことが好き
私は音楽を聴くことが好き
私は食べることが好き
私は運動が好き
私はドライブすることが好き
私は担任の先生が好き
特に笑っているところ

今までは人の笑顔を見ても
心から喜ぶことが出来なくて
笑顔の裏を常に疑ってきた
でも今は
人の笑顔を見るととても幸せになる

この先の人生
自分の好きなことで
息抜きすることも大切だと思うけれど
人と関わって
人の笑顔を見て幸せになる
そんな相乗効果を
味わうのも大切だと思う

好きなことをたくさん挙げることのできる自分。人との関わりの中で苦労やつらい思いを経験したからこそ、好きなことに触れるだけでなく、日常の中で、あたたかい笑顔と接することの喜びや幸せが目に見えるようです。人生に、明るい幸せを求める素直で前向きな心が伝わります。

総評

【詩（成人の部）】

寄せられた作品を読み、それぞれ類別すると、自身の内面を凝視した作品、情景や自然観察を通して描かれた作品が目立ちました。

凝視した言葉を自在に駆使しての自己表現それは詩創作の原点、基本です。今後とも続けてください。

【詩（少年の部）】

今回の応募作品も、作者のその時々の思い、詩を書く動機や願いなどが、作者その人の個性や歩みとともに、いろいろと想像されました。

詩を書く行為には自分を素直にさせる何かがあると思います。しかし、そこに至るまでには、「表現」という行為のもつ、人それぞれの様々な言葉との戦いがあることでしょう。言葉をさがし、文字にしていく過程で、普段隠れていた自分の正直な思いや願い、あるいは祈りが純粋な姿でそこに現れるのだと思います。言葉を選び、探す営みは時に苦しい作業でもあると思います。

詩を書く行為、書きたいという思いそのものが、一つのかけがえのない個性です。表現することで新しい自分を見つけることができるならば、未来の自分を築く一つの確実な営みと言えるのではないかと考えます。

入賞作品展（詩）の様子

随筆（成人の部）

	作　　者	タイトル	講　　評
第一席	月形刑務所 Ｓ・Ｈ	薬物依存症	「脳を刺激し，研ぎ澄ますため」と称してホームズはこっそり薬物麻薬に手を染めていたが，ワトスンの力によってそれとの関わりを絶つ話は作品の中に出てきます。 昨今，薬物に関連した話題を見聞きします。苦悶する自身の赤裸々な告白は，それだけ胸に迫るものがあります。
第二席	帯広刑務所 Ｓ・Ｅ	六十の手習い	文字は正しく書かなければいけませんが，美しく書くことも求められます。それはまた，文化そのものと言えるでしょう。年少の頃から毛筆に接して，今に至っているとのこと。お互い，一文字一文字心を傾けて書いていきたいものです。更なる精進を願っております。
第三席	函館少年刑務所 Ｔ・Ｓ	少年北海丸船員録	洋上航海訓練を通して得られた貴重な体験は，明日から始まる新しい未来への糧となるでしょう。言葉遣いも丁寧で文字もしっかり書かれており読みやすいです。

今年度の随筆部門（成人の部）には，道内８施設より４２点に及ぶ作品応募がありました。

随筆の「随」の意味は，“したがう”とか，“ついていく”，あるいは“自分の思うまま”，“任意であること”などです。寄せられた作品をそれぞれ傾向別に分けてみますと，胸中を凝視したり，自身の反省，悔恨，情景

読書感想文（成人の部）

	作　者	タイトル	講　評
第一席	札幌刑務所 Ｄ・Ｈ	だし〈出汁〉の奥深さを知る	和食の持つ「うまい，ｕｍａｉ（現在は国際語），おいしい」とする味覚の底には，工夫された「出しや旨み」の存在を否定するわけにはいきません。近代に至り，池田菊苗のグルタミンの発見，魯山人や辻嘉一らの旨みにこだわった名代の料理人たちの力もまた大きいのです。自身の体験も交えて，十数枚に仕上げたあなたの筆致力はすばらしい。
第二席	帯広刑務所 Ｓ・Ｅ	「詩画集風の旅」 を読んで	明日来るものに大きな夢や希望を描いていた星野さんは，思わぬ事故のため，以後不自由な生活を余儀なくされました。苦悶する彼の胸中から生まれた絵や言葉はどれだけ大勢の人に癒しと励ましを与えて来たでしょう。あなたも真正に受容されている方と読みました。
第三席	帯広刑務所 Ｉ・Ｙ	「蜘蛛の糸・地獄変」 を読んで	お釈迦様の慈悲の行いを，自身の我執のために救済の道を絶たれてしまった犍陀多の悲劇。作品の展開過程をしっかり読み取っています。

今年度の読書感想文部門（成人の部）には，道内７施設より３３点に及ぶ作品が寄せられました。

この分野は，対象となる本の範囲が広く，本の内容も実に様々，多様性の極致と申し上げても過言ではありません。それ故に，書き手―みなさんの興味・関心，感想，味わい方も千差万別。しかし，読み手にとりましては，それはまた，楽しみでもあり，るる教えられることでもあります。他の二つの領域の詩，随筆にも共通することですが，書くという営みは，ひとり自分を見つめる孤独な行為です。しかし，それはまた，人を成長させる上で，大きな力があるのです。

作文（少年の部）

	作　　者	タイトル	講　　評
第一席	月形学園 Ｎ・Ｎ	全てをリセット	一歩一歩，自分の下す判断と決断によって未来を切り開こうとする姿が明確に語られています。そのきっかけは，先生の言葉「全てをリセット」と，冷静な自己分析，未来予測，さらに親の心情や被害者心情の理解でした。見方や感じ方を広げる中で，真に願う自分の人生を手に入れるためには，今こそごまかしのない自分と勇気ある判断が不可欠であることを自覚する新しい自分がにじみ出ています。
第二席	北海少年院 Ｏ・Ｅ	今までの自分と これからの自分	内省を重ねることで，周囲に影響を与えた自分の言動の一つ一つや過ちを見つめ直し，改めて感情をコントロールする大切さを理解できる自分へと成長する過程が感じられました。心からの家族への感謝を本物とするために，今まで以上の勇気と行動力，粘り強さが求められていることを，今，筆者は十分に理解しています。迷いを捨てて，くじけずに，大きな一歩を踏み出すチャンスです。

読書感想文部門が発展し，５年目を迎えた「作文」部門の応募作品数は，平成２８年度２点，平成２９年度８点，そして今年，平成３０年度は２点でした。

２点に共通していたのは，自分との向き合い方の深まりです。内省・内観を重ねながら文章を書くことを通して，自分を多様な角度から捉え直し，これまでの自分の歩みを明確に照らし出している，と感じられました。

その過程には，受け入れがたい自分，やけくそな自分，また，自分に関わった家族や仲間，自分の言動で被害を受けた人への影響の大きさなどを，改めてよみがえらせるつらい営みがあったことと想像されます。

しかし，そのような過去の振り返りに止まりません。内省・内観を通して，未来の自分，なりたい自分の姿をできるだけ具体的に描こうとする営みも読み取れました。過去の自分を正しく理解し，これからの自分の人生や家族の人生，人とのより良いかかわりを大切にしようとする誠実な姿勢が感じられました。それは，正しく，本当の幸せを求め，考える姿に他なりません。

さて，「書くことは行動すること」と述べた作家がいました。言葉は，表と裏，嘘とまことなど，使われ方次第で良くも悪くもなります。しかし，自分に向けて書く言葉は，自分未来につながる言葉，未来を切り開く言葉になると思います。なぜなら自分へのごまかしは，すぐに自分に見抜かれてしますからです。

人間はもともと社会的な動物です。人と人との関係性の中で生きています。家族や友人から支えられたり，時には自分が支えたり。だからこそ，新しい自分づくりを決意した自分がぶつかる最大の壁は，元の環境にもどったときです。周りとの関係性の中で，元の自分にもどろうとする自分との戦いが始まります。知恵と勇気が必要です。

生きるとは，自分の道をそのつど選び，決断する連続です。そのためには，自分の考えの広さと深さが重要です。「書くこと」はその時々の記録であるとともに，自分の考えや心を深め，鍛えてくれる方法になると信じます。

入賞作品展の様子

第６１回　札幌矯正管区

管内被収容者美術・文芸等コンクール　入賞作品集

平成３１年３月　発　　行

編集・発行　札幌矯正管区第三部

発　行　所　札幌市東区東苗穂１－２－５－５

ＴＥＬ　０１１（７８３）５０６３

ＦＡＸ　０１１（７８０）２２０７